

(様式2)

健やか食育プロジェクト事業報告書

健康福祉事務所名 中播磨健康福祉事務所

1 食育推進体制の整備

食育推進課題	<p>当所管内は、幼児・学童期の肥満児出現率や乳幼児期から学齢期のむし歯有病者率が県平均と比較して高い。特に市川町は、管内3町の中でもこれらの数値が最も高く、成人期においてもメタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合が高い。</p> <p>成人期の対策も必要であるが、食習慣の形成される幼児期から食が自立する思春期を中心とした食習慣・生活習慣の改善が急務である。</p> <p>現在、市川町では、町主催の食育事業が多数展開されているが、他部門との情報や課題の共有が十分ではなく、また栄養士も正規配置ではないため、市川町における取り組みが効果的に推進するよう、重点的に支援していく必要がある。</p>
今年度の推進方策	<p>若い世代の食育力強化のため、子どもとその保護者及び食育活動の機会が少ない高校生等を対象に、特に課題が多くみられる市川町を中心とした食育実践活動を、行政と学校保健や地域の食育関係機関と連携・協力しながら展開することにより、管内全体の食育推進体制の充実を図る。</p>
成果	<p>地域の食育推進課題を行政と学校保健や食育関係機関と広く共有し、関係者間で検討することで、課題解決に向けた今後の取り組みの優先順位を明確にすることができた。また、食育実践活動を通じて、若い世代の食習慣・生活習慣の改善につながる具体的な方法を普及することができた。</p>
今後の方向性	<p>町保健分野と学校保健分野の役割分担を明確にし、関係機関・団体と協同した実践活動の推進を図る。</p> <p>市川町主体による実施体制が確立するよう支援していくとともに、管内全体の食育推進体制の充実につながるよう、市川町での取り組みの評価を他2町と共有する場の設定を行う。</p>

2 会議の開催状況

実施日時	①平成29年6月28日（水）13:30～15:00 ②平成30年2月15日（木）13:30～15:00
参集者 (団体数 及び人数)	①7機関・10人 ②7機関・9人
協議内容	①・地域課題の共有と推進方策の検討 ・計画の重点課題と取り組みの柱に基づいた食育実践活動の調整 ②・食育実践活動の評価と次年度の取り組みの検討
今後の方策	・関係機関・団体の役割分担の明確化と協働体制の確立 ・地域課題の解決につながる継続性のある食育実践活動の推進

※会議の議事録、参集者名簿を添付すること。

3 食育実践活動の結果

テーマ	若い世代への食育推進		
対象及び参加者数	①・市川町一般住民（「広報いちかわ」に掲載） ・市川町内幼児・学童の保護者（保育所・幼稚園・小学校・中学校を通じて配布） ②市川高等学校生徒及びその保護者、教員 160人 ③神崎郡内保育所・幼稚園・小学校・中学校・町健康福祉課等 45人		
事業内容	日時・場所	内 容	講師・運営スタッフ
	7月～3月	①一般住民等を対象とした食育普及啓発 ・市川町の広報紙掲載による一般住民への普及啓発（10月） ・リーフレット配布による子どもとその保護者への普及啓発（長期休暇前）	市川町健康福祉課 健康福祉事務所
	11月21日（火） 11:00～14:30 市川高等学校 食堂	②高校生を対象とした食育実践活動 ・食育クイズ ・体験学習、栄養相談 ・嗜好飲料&間食の実物展示 ・体格チェック	学生ボランティア 市川町いずみ会員 地域活動栄養士 健康財団中播磨支部 市川町健康福祉課 健康福祉事務所
12月7日（木） 市川町保健福祉センター 健康教育室	③若い世代に関わる指導者を対象とした研修会 ・情報提供「子どもの肥満予防及び歯科保健に関する現状と課題」 ・講演「お口の中から健康が見える～家庭がパワースポットに～」 講師 とくなが小児歯科クリニック “レオ” 院長 徳永 順一郎 先生 ・グループワーク「各機関における現状・課題と今後の取り組み」 ・食育指導媒体の展示	とくなが小児歯科 クリニック“レオ” 院長 徳永 順一郎 氏 健康財団中播磨支部 市川町健康福祉課 健康福祉事務所	
成 果	<p>【成果】研修会参加者アンケートの結果及び会議の出席者の意見より、実践活動を通じて地域課題を共有することができ、課題解決のための具体的方策の検討及び優先順位の明確化を図ることができた。</p> <p>【評価指標と目標値及び達成状況】</p> <p><計画評価>町及び所内の他職種と連携し、各種調査結果の活用及び養護教諭への聞き取り等による課題の把握、効果的な実施内容・目標の設定を行うことができた。</p> <p><プロセス評価>一般住民等を対象とした食育普及啓発において町との調整が難航し、一部予定どおりに進行しない部分もあったが、全体的には概ね計画どおりに実施できた。</p> <p><影響・結果評価>研修会参加者アンケート結果から、地域課題の共有及び関係者間での連携体制の強化につながった。</p> <p>○情報提供—参考になった（74%）・やや参考になった（19%）、どちらでもない（4%）、参考にならなかった（0%）</p> <p>○講演—参考になった（93%）、やや参考になった（4%）、どちらでもない（0%）、参考にならなかった（0%）</p> <p>○グループワーク・・・参考になった（70%）、やや参考になった（15%）、どちらでもない（7%）、参考にならなかった（0%）</p>		
今後の課題	・健康づくりへの関心が低い対象者に対する正しい食習慣・生活習慣の確立に結びつくための具体的方法の検討 ・関係機関・団体が連携した食育実践活動の継続実施		

※プログラムや内容がわかる資料を抜粋し添付すること。

平成 29 年度 健やか食育プロジェクト事業 ～若い世代の食育力の強化をめざして～

～今年度の推進方策～

若い世代の食育力強化のため、子どもとその保護者及び食育活動の機会が少ない高校生等を対象とした食育実践活動を、行政と学校保健や地域の食育関係機関と連携・協力しながら展開しました

一般住民等を対象とした食育普及啓発

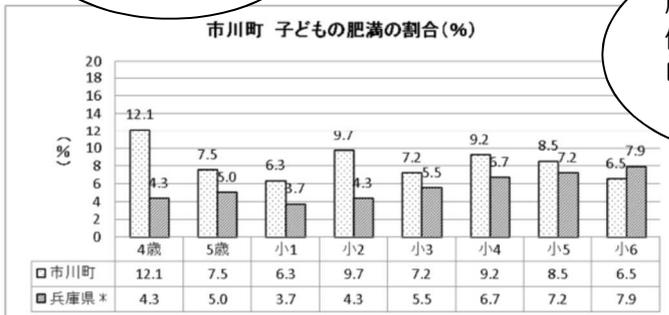
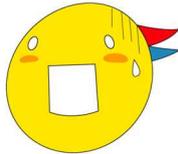
子どもとその保護者への普及啓発

- 時期：長期休暇前
- 内容：夏一適正体重の維持、水分補給の方法
冬一問食のとり方（おやつの内容と量）
春一朝食習慣と生活リズムの整え方等
- 協力機関：町健康福祉課

広報いちかわでの普及啓発

広報いちかわ「10月号」で、朝ごはんの大切さや栄養バランスのよい食事についてPRしました！

地域の子どもの肥満の状況は？



平成 29 年度 幼児・学童期の身体状況調査結果より（* 保健所設置市（神戸市、姫路市、尼崎市、西宮市）を除く）
4.5 歳児：幼児身長体重曲線を用いた肥満度判定方法、小学生：学校保健統計調査方式を用いた肥満度判定方法

成長を考えた
体重のコントロールを！



朝ごはんはどうして大切な？
生活リズムを整えよう！



おやつの食べ方を
チェックしよう！



○子どもにとって「おやつ」って？

子どもは、成長・発達のために多くの栄養素やエネルギーを必要としています。しかし、子どもの消化吸収の力も十分でないため、朝・昼・夕の3度の食事だけでは必要な栄養素やエネルギーをとることが難しいです。そこで、3度の食事以外に**栄養補給**が必要です。これが「おやつ」です！

だから、**おやつ ≒ お菓子** なのです。

